

三つの職業奉仕

当方は今現在 三つの職業奉仕があります。今の私の人生でこの三つの職業がどのように奉仕につながっているのかを説明したいと思います。また「職業奉仕」を説く時にロータリークラブの考えに添いながら自身の職業を説明し実践できればと思っております。

一つ目が先代そして父親から引き継いだ当方の今の核となる仕事、冷凍冷蔵空調厨房の設備業です。現代の地球温暖化や毎年記録を更新している日本の猛暑には必要不可欠な職業となり長い夏のなかで大変忙しく仕事（奉仕）をさせていただいております。当方が子供の頃は家庭用のエアコンは贅品でした。家の中に付いていたのはお客さんが来る応接間に有っただけでした。ですので今の様に忙しくはなかったと記憶があります。当社の前身は冷蔵庫や冷凍冷蔵ショーケース製造に力を入れてましたので当時そこそこの製造工場がありました。祖父の代から続くこの仕事が好きではありませんでした。今でも価格競争に晒されることが当たり前で価格はさることながら心が折れることがあります。私の性格や幼い頃から夢見ていた仕事とは大きくかけ離れていました、残念ではありますが私の長男も同じ考えのようです。話は戻り奉仕の観点からこの職業は「夏を快適に乗り切る」ための設備から「夏を生き残る」ための設備に変わっております。冷蔵庫に不具合が出ると食品にダメージやロスが出るために『直ぐになんとかして欲しい』と連絡が来ておりましたが今では老人ホームから入居者が体調を崩すので『直ぐになんとかして欲しい』と連絡がきます。今更ながら日本の夏に無くてはならない職業奉仕となっております。遣り甲斐を感じております。

二つ目の奉仕は酒田市役所と市民ホールの隣接地にオープンさせたカフェになります。客席45席程ではありますが酒田市のど真ん中に建てましたの日ごろから忙しくさせていただいております。このお店は私がロータリアンになってかオープンさせたお店ですので奉仕といった言葉は既に頭に入っております。どれだけ酒田市民のお役に立てるかが店づくりのコンセプトの一つとなっております。祖父が住んでいた母親の実家が空き家となりその空き家から見えていた風景に市民ホールの利用者たちの姿が目に入っております。コンサートや講演会、周年事業や各種式典等々で使われることの多い市民ホールはその開催時間に合わせて人々が集まってきます。飲食設備のないホールでは時間潰しの一杯のコーヒーもありません。駐車場でおにぎりを食べながら時間を待つ方々の姿もよく目にしておりました。この場所にカフェを作り広く市民の為になる空間と美味しい飲食の提供を思いつき十年の年月を経て始めることができました。最初は反対をしていた奥さんも修行に行きお客様を喜ばすために遅くまで仕込みを頑張っています。今ではオープン以来たくさんの方々から来店をいただき、奉仕の意味でもこの店を作った良かったと思っております。

三つ目の奉仕は当方が子供の頃からやりたかったアートのお仕事です。当方の母方の祖父は酒田市にある本間美術館の館長をしておりました。祖父はよく美術館にあった焼き釜で皿を作っていました。その皿に筆入れのため絵を描き文字を入れます。当時熱心に見ている私に絵を描かせ焼いてくれた思い出が何度かあり

ます。そして美術館を庭のように遊びながら時おり色んな絵を見せてくれました。そんな体験をしながら育った私は絵を描くのが大好きで、学生時代に祖父には美術系の学校に進みたいと話をしたのを覚えております。しかし祖父にはソレじゃ食っていけないから止めろと言われたのです。そこで父方の仕事の方面に進んだのですがカフェを始めようかと思っていた時に一つ出会いがありました。それがチョークアートです。当時カフェを開くために有名なお店にはよく足を運びました。その中で目に入ったのが入口や店内のブラックボードに書き込まれているチョークアートでした。初めはオシャレなお店のスタッフの中にそんなスキルを持った人がいるものだと勝手に想像をしておりましたが書店で見つけた雑誌にチョークアーティストの特集を見て衝撃を受けその日のうちに弟子入りの連絡をしました。私の幼少の頃からの夢であったアートの職業が突然目の前に現れたのです。今は日本チョークアート協会の会員です。チョークアートは商業アートです。お店の雰囲気を変えることで集客率を高め売り上げを伸ばすお手伝いをするのが仕事です。今はなかなか時間がなく思う通りの活動ができておりませんがオーダーをしてくれている方々に自分が一番したかった奉仕を実践できるように頑張りたいと思っております。

このように三つの職業奉仕を持つ私には残された時間は多く無いかもしれませんが。しかし理想なる奉仕を目指し自分のスキルを、職業をつうじて社会に奉仕していきたいと考えております。